

第6回道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会 議事録要旨

日 時：令和 2 年1月29日（水） 14時00分～15時30分

場 所：荒尾市役所 11号会議室

議 題：1. 前回（第5回）委員会について
2. 今後の進め方について
3. 道の駅あらお（仮称）基本構想（素案）について
（1）第1章～第3章
（2）第4章～第5章
（3）第6章～第7章

出席者：波積真理委員長（熊本学園大学教授）、山代秀徳副委員長（荒尾市観光協会会長）、高橋伸佳氏（JTB総合研究所所長）、高木洋一氏（荒尾商工会議所会頭）、西川幸一氏（荒尾漁業協同組合代表理事組合長）、前田和隆氏（熊本北部漁業協同組合副組合長）、江寄大作氏（荒尾飲食店組合組合員※代理出席）、内田保代氏（荒尾市食生活改善推進員協議会会長）、長江亮氏（独立行政法人都市再生機構九州支社都市再生業務部市街地整備第2課長※代理出席）、北原伸二氏（荒尾市産業建設部長）

事務局：田中産業振興課長、高村産業振興課課長補佐兼道の駅整備推進室長、松本産業振興課参事、株式会社マインドシェア

関係部署：農林水産課、都市計画課

1.開会

田中産業振興課長が開会を宣言し、資料の確認を行った。

2.欠席委員及び代理出席者の紹介

田中産業振興課長から、欠席委員及び代理出席者を紹介した。

3.委員長あいさつ

お忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。

第1回目の委員会から1年2か月が経過し、間隔が空いた部分もあったが、長期間に亘り、1回1回が中身の濃い協議ができたと考えている。事務局の苦勞もあり、基本構想の素案を示していただくことができた。

本日は、この構想素案を検討いただき、意見を踏まえたうえで、パブリックコメントの実施となっている。本構想について、市民の皆様の意見をいただくということを念頭に置きながら、本日も活発な議論をお願いしたい。

4.議事

（1）第5回委員会について

事務局が、資料1に基づき、第5回（前回）委員会の振り返り（主な意見）について説明した。

意見や質問等はなかった。

(2) 今後の進め方について

事務局が、資料2に基づき、道の駅あらお（仮称）基本構想等策定委員会の開催概要について説明した。

意見や質問等はなかった。

(3) 道の駅あらお（仮称）基本構想（素案）について

①第1章～第3章

事務局が、資料3に基づき、第1章「道の駅あらお（仮称）」の位置づけ、第2章「道の駅」の概要、第3章荒尾市の現状について説明した。

意見や質問等はなかった。

②第4章～第5章

事務局が、資料3に基づき、第4章「道の駅あらお（仮称）」の必要性、第5章荒尾市が目指す「道の駅」について説明した。

内容について意見交換がなされた。

(主な意見)

○大変良いことが多々記載されているが、実際についていけるのかが懸念される。記載内容の懸念事項である、商品の供給・魅力づくりなどが重要と思われるが、これに関する具体的な記載がない、取りまとめとしてはすごく良いが、具体的なことが示されないと、実際にうまくいくのかが心配になる。

○41 ページに今後の課題として、まとめて記載されているが、そこが皆さん心配される部分であるかと思う。当然何も考えていないわけではなく、市長も若手農業者の育成など、農業に力を入れていきたいという話も聞いている。

【事務局】

⇒41 ページの今後の課題について、それを具体的にどのように解決していくのかというご指摘かと思うが、本構想は、道の駅整備に向けた基本的な考え方の取りまとめとなっており、それぞれの各論となる農業・漁業・観光をどのようにしていくのかに関しては、次のステップとして考えていかなければいけないことと認識している。

観光には、観光振興計画があり、農業にも計画がある。それら計画との連携や関係者との協議を行いながら、細かい事も含めて進めていきたい。

また、魅力づくりに関しては、ウェルネス拠点における考え方として、各施設との機能連携が他の道の駅には無いため、全体的なまちづくり計画が整えば非常に魅力的な道の駅になると考えている。ただし、商品の供給や何を具体的に売っていくのかに関しては、課題がたくさんあるため、さらなる検討や協議が必要かと考えている。

②第6章～第7章

事務局が、資料3に基づき、第6章「道の駅あらお（仮称）」の導入機能、施設イ

メージ、第7章の今後の展開について説明した。

内容について意見交換がなされた。

協議の結果、本構想（素案）については、本委員会で出された意見等を踏まえ、修正した内容をパブリックコメントにおいて公表することとし、修正については、事務局及び委員長へ一任することとして承認された。

（主な意見）

○提案として、33 ページの導入機能と施設展開については、施設機能としてハードの部分のみをここでまとめるのではなく、その他の機能も示す必要があると考える。

その理由として、25 ページに上位計画に関する総合計画の基本施策において、地域経済循環の促進、農水産物の高付加価値化、販路開拓・拡大支援と記載があるが、施設経営を持続可能なものとしていくには、マーケティング機能が重要である。

具体的には、市場調査、マーケティング戦略・戦術を策定し、実行する機能。道の駅の産品販売では、マーチャンダイジングの機能、ブランドマネジメント、プロモーションの実施機能。場合によっては、土産品・特産品などの商品開発にも関わる機能などが必要である。

また、プロデュースやコーディネートしていく機能を付加することによって、懸念される事項や不安定な部分が解消されていくのではないかと。

見えているハードに対して、それをどのように運営していくのか、どのように売っていくのか、そこに出荷して本当に売れるのかなど、事業者の方々の心配は当たり前であり、「それらの懸念事項に対応した機能も併せて検討している道の駅である。」という見せ方が、重要である。周辺に競合が多く、かつ、今後は人口も減っていく中で、ただ施設をつくってそこに物を置くだけで、本当に売れるのかと疑念に思われる事業者・市民の方もおられるため、ただ施設をつくるだけではないということを示した方が良いと思う。

もう一点提案であるが、第3章の表題が「荒尾市の現状」となっているが、第4章の「道の駅」の必要性につながってくるため、「荒尾市の現状と課題」としたほうが良いかと思う。第3章の内容としては、現状のみではなく課題も記載されているため、第4章へのつながりや構想としての完成度も上がるのではないかと。

【事務局】

⇒第3章は、荒尾市の現状と課題に修正させていただく。また、33 ページに関しては、昨今では、道の駅においてもプロデュース機能・マーケティング機能が重要視されており、そのような機能を持たせた道の駅の整備を検討しているため、記載内容等を踏まえて検討する。

○素案としては、先ほどから意見が出ている通り素晴らしい出来になっていると思う。ただ指摘のあった通り、どのように運営をサポートしていくのか、一つ一つの産品に対して深く掘り下げてサポートし、売れる商品をつくること。また、マーケティング機能を活用して、ニーズに合った商品をどのようにつくっていくのかのかが課題である。

○道の駅あらお（仮称）はまだ仮称であるが、どのようなネーミングにしていくの

かも今後の課題になっていく。

○荒尾市は、未来戦略ということ掲げており、未来の道の駅にしていかなければならない。まちづくりもスマートシティとして、交通手段や施設の検討をしている。道の駅に来たら未来の体験ができるといったようなものにしていく必要がある。

○否定的な意見を言うわけではないが、過去の荒尾市の経緯も踏まえながら検討しなければ大変なことになるということを申し上げておきたい。

また、本日の委員会は半数近くが欠席であるが、この状況でこのような重要な会議を開催してよいものか。それぞれの事情はあるにせよ、そこも意識していただきたい。

過去にも荒尾市では、大きな直売所が整備された経緯があるが、2年もたなかった。今現在続いている直売所も厳しい経営状況が続いている。

また、過去には、ふるさと創生基金を活用し、テーマパーク構想としてアジアパークという構想を打ち出し、大きな投資を行った。世界各国の料理やバンジージャンプ体験など色々な手を打ったが、結局うまくいかず大きな負債を残して閉鎖した。

そういう過去の事例からしっかり学び、道の駅の整備検討を行っていかねばいけない。

○スマートシティに関しても、目的を明確にして協議しないとうまくいかないのではないかと。何のために、何をするのかなど、しっかり協議をしながら進めてほしい。

○ただ単に施設をつくったから人が集まる、物をつくったから売れるというご時世ではない、道の駅に関しては「物販」の魅力付けも重要であるが、「時間の過ごし方」、「体験」、「思い出」、「感動」などが提供できる素晴らしいポテンシャルがあると考えているため、そのような方向に進めば、「物販」との相乗効果も得られると考えている。

構想としては、現代の消費者のニーズに合った内容になっているのではないかと考えられるため、今後、色々な方と連携しながら進めていってほしい。

○ある会合では、道の駅をつくるのであれば、年配者が1日中楽しめるような道の駅にしてほしいという意見が出た。

温泉やフィットネスクラブなどの検討がなされていることに関しては、賛同が多かった。

また、直売所に関しては、生産者の高齢化、後継者不足などから、早く整備しないと出荷者がいなくなってしまうという意見や、若い方に対して農業に意識を向けさせる取組なども必要であるという意見も出ていた。

○食を中心に据えた整備により特徴を出すことに加えて、有明海に近く、普賢岳も見えて、夕陽もきれいであるという地理的特性は非常に強みであると考えられる。また、南新地地区における施設間連携についても、他にはない大きな特長になり得るのではないかと。

構想案としては、各機能や他の施設との連携についてイメージを膨らませて、ワクワクできる内容になっていると思う。今後、どのように具体化していくかは簡単な話ではないが、荒尾ならではの特徴的な部分が示されており、次のステップに進んで前向きな検討ができるのではないかと。

○35 ページに若者や企業者に対するチャレンジスペースの提供とあるが、1か所ではなく、様々な業態に対応できるよう、複数が入店できるようなスペースであってほしい。
また、テナント設置についても、期限付きではなく常態的に設置できたほうがよいと感じた。

○このようなワークスペースを複数の人でシェアするスタイルも最近流行りつつあり、ユニークな人材が集まり地域が活性する事例もあるので、大切なことだと思う。

5.その他

田中産業振興課長が、次回の委員会開催については、3月中に開催する意向を伝えた。

6.閉会

田中産業振興課長が、閉会を宣言した。